

**ICT を用いた総合診療医/プライマリケア医への HIV 感染症の知識普及・問題点集積と、
症例相談システムについての研究**

大塚 文男

岡山大学医学部大学院医歯薬学総合研究科 教授

研究要旨

日本病院総合診療医学会には 788 施設から、1,644 名の総合診療医/プライマリケア医が参加している。これらの医師を中心に、ICT を用いて全国幅広い地域での HIV 感染症についての啓蒙と問題点の抽出を行う。非専任医への教育においては、ニーズ（何を知らないのか、何を知りたいのか）の調査が必要である。

Web 上で HIV に関する質問に答え、その正誤の結果に合致した動画解説を行うシステムを構築した。質問と感想は、「HIV 感染症の基礎知識」「早期発見」「慢性期の管理」「治療」のパートに分かれている。令和元年 6 月から日本病院総合診療医学会の会員を対象に開始し、受講した医師には総合診療専門医の指導医認定資格の単位を与える。同時に診療における問題点のアンケートを Web 上で実施し、問題の正誤やアンケート結果を解析し論文化する。

A. 研究目的

本邦における HIV 感染症の診療は HIV 感染症専任医を中心に行われており、地域のクリニックや一般病院における「早期発見」や「慢性期の管理」は適切に行われていない。これには、今までのように専任医のみではなく地域に密着した医師（非専任医）も HIV 診療に参加することが効率的であり、かかりつけ医の協力が不可欠である。しかし、総合診療医/プライマリケア医の HIV 感染症の知識は不十分であり、現状のままでは実施が難しい。

このため、総合診療医/プライマリケア医に対し Web システムを用いた知識普及

と問題点の集積と、Web 上での総合診療医と専門医との症例相談システムの確立を行うこととした。

B. 研究方法

我々は平成 30 年度に教育に役立つ Web システムの開発を行い、日本病院総合診療医学会のネットワークを利用し約 1,600 名の総合診療医/プライマリケア医に教育する体制の構築をした(図 1)。令和元年 6 月から会員が HIV に関する質問に返答し、返答の正誤により動画によるレクチャーを受けることになる。この講義の受講は総合診療専門医の指導医資格の更新単位と

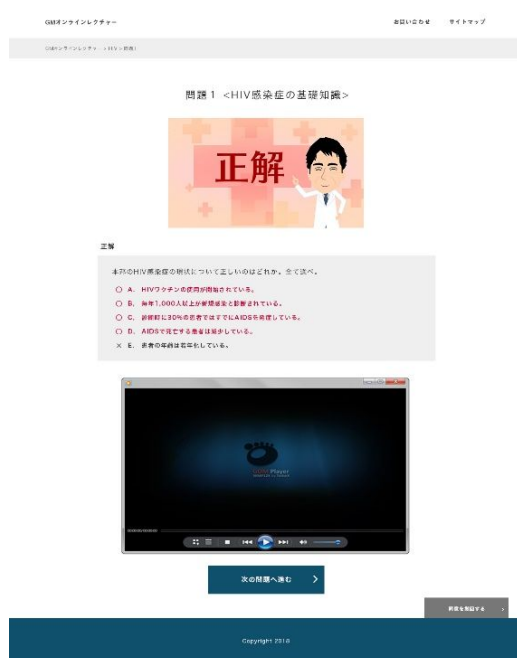
して日本病院総合診療医学会に認定される予定である。これにより、最新の HIV 感染症の知識を非専任医に定期的に供給すると共に、総合診療医の知識が不足している部分を解析し、総合診療医が HIV 診療を敬遠している理由を明らかにする。

C. 研究成果

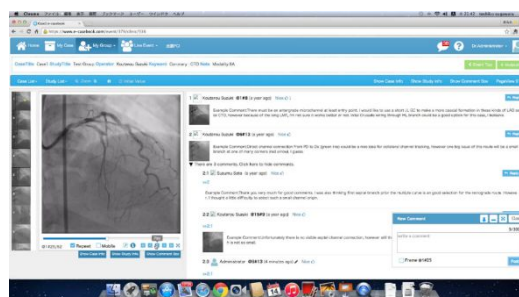
Web 上で HIV に関する質問に答え、その正誤の結果に合致した動画解説を行うシステムを構築した(図 2)。

予め参加登録された医師が Web 上で事例検討ができるシステム (e-casebook) を設立した。これにより、全国の総合診療医が HIV 感染症の症例について専門医に相談できることになる。まずは限定された医師のみの検討の場とするため、全国 20 名の総合診療医と 2 名の HIV 感染症専門医を登録し開始した。

(図 1) Web による遠隔教育システム



(図 2) Web による遠隔症例検討システム



D. 考察

全国の様々な規模の 788 病院を網羅したグループの研究であることから、参加者の医療施設規模、地域別 (都市部・地方など) の問題意識・改善希望点を統計学的に分析することができる。現在の医療提供体制においての地域ごとの問題点、医療機関の背景による課題の違い、専任医と非専任医による体制の差異などを検討し、現行の医療体制問題点の解決策を見出す。

質問と解説は「HIV 感染症の基礎知識」「早期発見」「慢性期の管理」「治療」に分かれている。令和元年 6 月から日本病院総合診療医学会の会員を対象に開始し、総合診療専門医の指導医認定資格の単位とする。同時に診療における問題点のアンケートを実施し結果を論文化する。

E. 結論

ICT を用いた教育システムを構築したことにより、今後 HIV 感染症の早期発見、長期管理に関する教育を総合診療/プライマリケア医に実施することが可能となった。このシステムにより、一方的な教育ではなく、診療の障壁となっている問題点の抽出が可能となると考えられる。

研究発表

1. 論文発表

- 1) Kosuke Oka, Yoshihisa Hanayama, Asuka Sato, Daisuke Omura, Miho Yasuda, Ko Hasegawa, Mikako Obika and Fumio Otsuka: Clinical characteristics of febrile outpatients: Possible involvement of thyroid dysfunction in febrile tachycardia. *Acta Med Okayama*. 72: 447-456, 2018.
- 2) Ko Harada, Yoshihisa Hanayama, Miho Yasuda, Kou Hasegawa, Mikako Obika, Hitomi Kataoka, Koichi Itoshima, Ken Okada and Fumio Otsuka: Clinical relevance of low androgen to gastroesophageal reflux symptoms. *Endocr. J.* 65: 1039-1047, 2018.
- 3) Daisuke Omura, Asuka Sato, Kosuke Oka, Yoshihisa Hanayama, Hiroko Ogawa, Mikako Obika and Fumio Otsuka: Changes in serum biochemical markers in relation to chief complaints and aging in general medicine. *Acta Med. Okayama* 72: 553-562, 2018.
- 4) Ko Harada, Yoshihisa Hanayama, Mikako Obika, Koichi Itoshima, Ken Okada and Fumio Otsuka: Involvement of serum dehydroepiandrosterone sulfate in erythropoietic activity. *Aging Male* Mar 23:1-8, 2019.

2. 学会発表

- 1) Ko Harada . How can we collaborate with the Society of Hospital Medicine? A young hospitalist's perspective . 第 18 回日本病院総合診療医学会学術総会 . 沖縄 . 2019.02
- 2) 徳増一樹、永田恵蔵、平辻知也、小比賀美香子、花山宜久、片岡仁美、久貝忠男、大塚文男 . 沖縄県北部地区における総合内科の現状と役割 . 第 18 回日本病院総合診療医学会学術総会 . 沖縄 . 2019.02